

当面の月面探査の進め方について

令和 6 年 3 月 14 日
宇宙利用推進室

1. 趣旨

宇宙基本計画（令和 5 年 6 月）においては、我が国としても「アルテミス計画の下、国際パートナーとともに国として主体性を持って、持続的な月面探査と、探査の進展に応じた基盤整備を実施する」ことを掲げている。月周回有人拠点（ゲートウェイ）については、ゲートウェイ了解覚書（令和 2 年 12 月）及び実施取決め（令和 4 年 12 月）に基づき、国際協力の下での開発が進んでいる。次のステップとして、月面探査に本格的に着手する必要があり、本年 1 月の小型月着陸実証機（SLIM）のピンポイント着陸の成功や米国「Moon to Mars」のアーキテクチャ文書の改訂、現在検討中の宇宙技術戦略等を踏まえ、当面の進め方について検討を行う。

2. 検討課題（案）

- 月面輸送、着陸技術の開発
- 水資源探査とそのための技術開発
- 月測位システムの確立に向けた技術開発
- 月面の科学
- 有人と圧ローバの開発
- 異分野融合や産業界参画の促進
- 将来の火星探査に向けた技術開発 等

3. 進め方

上記の取組について、JAXA や民間事業者からヒアリングを実施した上で、6 月中を目途に取りまとめを行う。